

弘法大師空海が刻んだ 石仏をまつった小さなお堂

国道11号、かつての伊予街道を西に進み、三豊市との境にある鳥坂峠に近づくと、吉原大池の南東側のほとりに七仏薬師があります。

その昔、弘法大師空海がここにお堂を建て、自ら薬師7体の石像を刻んでまつり、ごくほうじょう五穀豊穰と疫病からの救済を祈りました。いおうざんしちぶつじ医王山七佛寺と呼ばれ、多くの人々が参拝しましたが、中世の戦乱で焼けてしまいました。時を経て承応元（1652）年、吉原大池の工事をしていると土の中から石仏が現れまし

た。工事監督が池の堤にするため砕こうとすると、たちまち気絶して倒れてしまいました。ほどなく息を吹き返しましたが、怖くなって割ることをやめました。するとその夜、夢に僧が現れて石仏のいわれを告げたので、この場所にまつたといわれています。

その後、安永8（1779）年にお堂が建てられ、七仏薬師が再興されました。七仏薬師は、お参りするとも母乳の出がよくなるというので、「乳薬師」とも呼ばれています。目を凝らして暗いお堂の中を見ると、乳房をつけた絵馬がたくさん奉納されています。



門先には西行法師の歌碑があります。

